

波と風

理 念

思いやりのある
やさしい誠実な医療を
提供します

基本方針

1. わかりやすい説明による安心・安全な医療を提供します
2. 最新の知識と技術による質の高い医療を提供します
3. 地域医療機関との連携を強化し、地域社会の発展に貢献します
4. 高度な専門性をもつ医療人の育成に努めます
5. 医療資源を適正に活用し、健全な経営を実践します

CONTENTS

- 2P 新年度を迎えて
- 3~7P 就任挨拶
- 8~9P 診療科紹介 (内分泌・糖尿病内科)
- 10P 職場紹介 (4B病棟紹介)
- 11P 令和8年度 辞令交付式について
- 12P 令和7年度 第44回院内研究発表会
- 13P 第16回 治験責任医師表彰
- 14~15P 患者の垂直避難を行った院内災害訓練
- 16P 第61回 卒業式を終えて
- 17P 64回生 入学式を迎えて
- 18P 「令和7年度 呉医療センター特定行為研修」修了式の開催について
- 19P 連携医療機関紹介 (くぼファミリークリニック)
- 20P 我が家のスターたち
寄付について、編集後記



新年度を迎えて

呉医療センター・中国がんセンター 院長 繁田 正信

春の訪れと共に、3月下旬から咲き始めた桜の季節も終わり、暖かく過ごしやすくなりました。今は皐月が咲き誇っています。皐月とツツジ、よく似た花で混同されている方も多いと思います。それもそのはず、どちらもツツジ科ツツジ属の植物で、花の形も樹の高さもよく似ています。皐月は江戸時代にツツジを品種改良にて作られた、日本原産の種と言われています。開花時期がツツジの方が少し早く4月頃、皐月が5月頃と少しずれます。元々、旧暦の5月(皐月)に咲く事から名付けられました。また、皐月の花言葉は、幸せ(幸福)、協力、節約、貞淑です。乾燥に強く、あまり水をあげなくても育つ事から、節約の花言葉が付いたそうで、街路樹で多く見かけるのもそのためです。

4月から新年度が始まりました。春は移動の季節でもあります。今年、大庭副院長、田代副院長、徳臣事務部長が定年退職され、讃岐臨床研究部長、郷原看護部長が移動されました。一度に5名の幹部職員を失うことは、記憶の限り前例がありません。特に大庭副院長、田代副院長は目上でもあり、また讃岐臨床研究部長は大学の同級生だったため、何かに付けて教えて頂いたり、頼ることも多かったのですが、これからは自分が最年長となり、今まで以上に責任の重さをひしひしと感じています。ただ、4月からの新しい病院幹部職員は、立川副院長(元統括診療部長)、杉野副院長(元内科系診療部長)、清水統括診療部長(元外科系診療部長)、山崎臨床研究部長(元整形外科、リハビリテーション科科長)、山根事務部長(元浜田医療センター事務部長)、樋口看護部長(元四国こどもとおとなの医療センター看護部長)と、今までの幹部職員に引けを取りません。長年築き上げられた歴史と伝統のお蔭だと思いますが、新しい幹部職員は、いずれも一騎当千の強者揃いです。病院の機能を落とすことなく、さらに加速して当院を盛り上げ、引っ張って行

てくれると信じています。

少子高齢化による人口構成の変化により、様々な領域における人手不足が深刻化して来ています。医療においても、その波は確実に押し寄せて来ています。医師、看護師、事務職員、理学療法士などなど、病院は様々な職種の人々の力によって支えられています。コンピューター(AI)が少しずつ医療の世界にも取り入れられておりますが、カルテの内容は個人情報そのものです。AIはインターネットで外部と接続する必要があるため、個人情報保護の問題もあり、中々急には置き換わることが出来ません。また、患者さんの移動やベット上の体位変換等に関しても、機械が人を助けてくれる部分もあるのですが、やはり現段階においては人が頼りです。術前術後や入院の説明等も動画等で一般的な説明は可能ですが、細かい部分に関しては人対人による説明が避けられません。ところが、出生数の減少により、獲得できる人材数が年々減少して来ています。私の母校、県立呉宮原高等学校も、私が高校生の頃は1学年400名の定員でしたが、今は200名と半分です。当然、卒業後に進学、就職する人数も半分になりますし、結果として病院に就職される人数も半分になります。職員の半数を占める看護師が一番最初にその影響を受けます。看護師のいない病院は成立しません。そこでお願いです。新人の看護師は、まだ至らぬ点多々あると思います。我々も十分な教育を行いますが、患者さんを含めた地域の人々全員で、一人前の看護師として育てて頂きたいのです。温かい言葉や励まし、これが彼、彼女達新人看護師にとって非常に大きな支えになります。

今年度も引き続き全力で呉市及びその周辺の人々の健康を支える医療を全力で行っていきたくと考えております。ご声援を宜しくお願い致します。



就任挨拶

副院長 立川 隆治

この度、4月1日付で副院長に就任いたしました。統括診療部長在任時に引き続き、呉医療センターの未来に貢献できることを大変光栄に存じます。

私は平成26年4月、広島大学病院より耳鼻咽喉科・頭頸部外科科長として赴任いたしました。その後、中央診断部長、外科系診療部長を経て、2年前に統括診療部長を拝命いたしました。その膨大な業務も、前任の大庭先生やスタッフの協力を得て全うすることができました。統括診療部長就任と同時に医療安全管理部のメンバーに加わりましたが、この度は医療安全管理部長として、改めて医療安全担当の任務に就きます。今春の退職や人事異動で体制が大きく変わり、責任の重さを痛感しております。前任の部長やメンバーからこの2年間で学んだ知識を活かし、より安全な医療の提供に寄与できるよう努めてまいります。

また、近年は物価や人件費の高騰、深刻な人手不足が病院経営の大きな負担となっています。特にスタッフの確保は年々厳しさを増しており、呉市内をはじめ周辺地域の人口減少を鑑みると、今後さらに厳しい状況が予想されます。

当院においても大幅な人員増が期待できない中、私に課せられた医療安全以外の重要な役割は、業務効率化に



就任挨拶

副院長 杉野 浩

この度、繁田院長の命に依り、令和8年4月より副院長に就任致しました杉野 浩です。

平成27年に当院に赴任し、循環器内科・心臓センターとして診療に携わってききましたが、令和6年に消化器内科の高野弘嗣先生が副院長を退任されて以降、内科系では最も年長医となり、内科系診療部長職で内科の運営に関わって参りました。内科のサブスペシャリティ8科は専門性が特化しており各科のシステムを構築していますが、病院全体としての内科1階部分の役割があり、救急外来診療、総合内科診療、検診業務、研修医教育は内科全体で協力して行っています。内科系診療部長として、内科システムを構築すべく、微力ながら努力して参りましたが、今回副院長という大役を仰せつかりました。今後は病院全体を俯瞰する役割を仰せつかり、身の引き締

に向けた新たな資源の投入と管理です。現在は、情報入力端末の導入やAIを活用した記録管理などを進めております。しかし、多様な現場のニーズに対し、AIを活用したとしても、その内容には一定の検証が不可欠です。部門によっては十分な精度が得られず、検証作業がかえって新たな業務負担となる懸念もあります。

投資した資源の精度や効果を見極めるのは、やはり「人」です。医療安全を大前提とする以上、このプロセスを疎かにはできず、改めて人の力の重要性を痛感しております。高精度なAI導入には膨大な費用と労力を要し、将来を見据えた積極的な投資は不可欠ですが、財源は限られています。どの部門への投資が最も有効かを、慎重に見極めていく必要があります。

劇的な業務負担軽減は一朝一夕には叶いませんが、着実に効率化を推進し、それがより良い医療の提供へとつながるよう尽力し、今後も呉医療センターが呉医療圏で中心的な役割を果たし続けられるよう、引き続き努力してまいります。

各職場におかれましては、何かと不便や困難なこともあるかと存じますが、今後とも皆様の変わらぬご支援とご協力をお願い申し上げます。

まる思いです。部長職の経験年数が浅く、病院経営の視点では勉強不足で、不安が多いのも事実ですが、繁田院長は温かく御指導下さり、立川副院長は同郷、新庄高校の先輩にあたりますし、清水統括診療部長は広島大学の同期であり運動部の主務を共に経験した仲であり、気軽に相談できる心強い状況で感謝しています。

循環器内科医として心臓センターの当直、当番など循環器緊急を担当することはもちろんですが、呉看護学校の副校長として看護学校の運営、地域連携室や診療報酬(レセプト)関連などを担うべき役割として、病院運営の一翼を担うとの責任感と気概を持って副院長職務に当たる所存ですので、ご指導ご鞭撻を宜しく申し上げます。



就任挨拶

統括診療部長 清水 洋祐

この度、令和8年4月1日より統括診療部長に就任いたしました。私は、2005年4月に当院外科に赴任、はや21年が経過し最長老の部類です。今回、外科系診療部長を経ての拝命です。統括診療部長とは、外科内科合わせて診療部門の全体をまとめ、管理・運営を担う重要な役職であり、病院全体を考える広い視野が求められる重責であり、大変緊張しておりますが、全力で努力して職務を全うしたいと考えております。

昨今、医療そのものも大きく変化しております。治療方針は医師が一方向的に決める「パターンリズム」から医療者と患者が情報を共有し協力して治療法を選ぶ「シェアード・ディシジョン・メイキング(共有意思決定)」へ、臓器別の専門分化から医師、看護師、薬剤師、リハビリ職などが連携する「多職種チーム医療」により患者を総合的に支える体制になっています。ご存じのように、2030年日本は高齢化のピークを控え、医療者の人材不足や医療費の増加が喫

緊の問題となっておりますが、一方、以前は当たり前だった医師の長時間労働に上限が設けられるなど、医療従事者の働き方も見直されています。それらの問題に対してICT(情報通信技術)、AI(人工知能)、ロボット技術の導入が医療現場では本格化しています。

さて、この21年の大きな出来事といえば、2018年の西日本豪雨に加え2019年末から未だ影を落とす新型コロナウイルス感染症が挙げられます。当院も病院業務に多大な影響を受けましたが、一致団結して柔軟に対処してきました。この柔軟性に磨きをかけ、直近に差し迫る診療報酬改定、働き方改革、そして将来起こりうる難局に対処していきたいと考えています。

「思いやりのあるやさしい誠実な医療」をモットーに地域に根ざした医療を提供していきます。力の及ばない点多々あるとは存じますが、微力ながら精一杯努めたいと思っておりますので、どうぞよろしく願いいたします。



就任挨拶

臨床研究部長(整形外科科長) 山崎 琢磨

この度、4月1日より臨床研究部長を拝命いたしました山崎琢磨と申します。私は平成7年に広島大学を卒業後、広島大学整形外科教室に入局致し、関連病院での研修を経て平成14年に広島大学大学院に進学いたし、骨髄間葉系細胞を用いた膝半月板の再生に関する基礎研究に携わりました。臨床では股関節外科を中心に経験を積みながら、大腿骨頭壊死症に対する細胞治療の臨床研究を続け、同分野において診療ガイドラインの担当責任者としても研鑽を積ませていただきました。16年間の大学勤務の後、平成31年4月に広島大学病院から当院リハビリテーション科長として赴任いたし、令和3年4月より整形外科科長として診療にあたっており、令和5年4月より医療技術研修センター長、令和6年4月より医療情報部長を務めさせていただきました。引き続き臨床研究部長という当院において重要度の高い職務に貢

献できることを大変光栄に存じます。

医療は日進月歩で高度化が進んではいますが実際には部分的に突出しているだけであり、日常診療の中で生じる疑問や課題は今なお多く、これらを解決して医療の質を向上させるために臨床研究は不可欠です。当院は診療と研究の両輪で運営されている高度医療機関であり、医療に従事する我々の中に燻っているであろう高度医療を実践する達成感と未解決の事象に対する探究心を共に満たすことのできる可能性をもった病院です。昨今、働き方改革が優先される時代となっておりますが、現状維持の医療にとどまらないよう、当院の機能を存分に活かすために微力ながら尽力いたす所存です。これからも皆様の変わらぬご支援とご協力を賜りますようお願い申し上げます。



就任挨拶

感染対策部長 妹尾 直

令和8年4月1日より感染対策部長を拝命いたしました呼吸器内科の妹尾です。

2020年に世界的に流行した新型コロナウイルス感染症が新興感染症として猛威を振るってから6年になりました。その間、日本の感染症法上の位置づけは「2類感染症」から「5類感染症」に移行して、我々は日常生活を取り戻しました。これまでに新型コロナウイルスに対する薬剤やワクチンが開発されていきましたが、新型コロナウイルス感染症での死亡者数は減少せずにほぼ横ばいになっています。それは、新型コロナウイルス流行期で構築された蔓延防止策が一般社会において実行されずに、自由な経済活動を取り戻したことが一つの

要因であろうと考えられます。病院においても、自由な面会は患者および家族に心の安定を享受しますが、感染対策としてはそれを制限する必要が出てきます。この相反する、人々の自由な行動と感染対策は、うまくバランスをとりながら運営していく必要があります。これからの感染対策は、漫然とした感染防止ではなく、その時の感染状況に応じ臨機応変に行っていくなければなりません。そのためには、地域の先生方や保健所の方々と密に連携させていただき、感染の情報を共有するとともに新たな感染対策を共に構築できればよいと考えております。



就任挨拶

外科系診療部長・中央手術部長 首藤 毅

この度、令和8年4月より外科系診療部長・中央手術部長に就任致しました。新たな役割に身の引き締まる思いであります。

私は平成27年10月に外科医師派遣が大阪大学から広島大学へ移行するに伴い、広島大学から8名で当院外科に赴任しました。10年6か月の間、一貫して肝胆膵外科、特に膵癌・胆道癌の手術を含めた集学的治療に邁進してきました。令和4年からは感染対策部長として、猛威を振るった新型コロナウイルス感染症やその後のインフルエンザの大流行に対してスタッフ一丸となって戦ってまいりました。

この度拝命した役割は、全ての外科系診療科の円滑な運営とともに手術に関わる全ての職員が快適に自分の職務を全うできるように様々な問題を解決することと考えます。医師を含めた働き方改革により、一人当たりの仕事量の上限が制限されており、医療レベルを維持するには、仕事効率を上げるしかありません。そのためにはチーム制やタスクシフトが重要で、多職種が協力してコミュニケーションをとり、楽しく仲良く働ける環境作りが責務と考えています。

当院でのロボット支援手術導入から2年が経過し、泌尿器科、外科(胃・大腸・膵臓・肝臓)、呼吸器外科、婦人科で順調に症例を増やし、令和7年は247例のロボット支援手術を行いました。厳しい病院経営状況ではありますが、6月の診療報酬改定では、外科医療確保特別加算(外科医にインセンティブあり)や内視鏡手術用支援機器加算(ロボット支援手術に加算あり)など外科系診療にとって追い風もあります。患者さんにとって安心・安全な高度で良質な医療を提供することで、呉の地域医療および地域の皆さまに貢献できるよう努力してまいります。

微力ではありますが、皆様のご協力を頂きながら精一杯務めさせていただきますので、どうぞよろしくお願い申し上げます。





就任挨拶

内科系診療部長 吉田 成人

この度、令和8年4月1日より内科系診療部長を拝命することとなりました吉田成人と申します。これまで内視鏡内科(消化管)で診療に携わってきましたが、今後は内科全体を俯瞰する役割を仰せつかり、身の引き締まる思いです。

現在、日本の医療界は大きな転換期を迎えており、なかでも「医師の働き方改革」の本格運用は、単なる労働時間の短縮にとどまらず、医療の質と持続可能性をいかに両立させるかという極めて重要なテーマとなっています。当院内科でも救急および一般内科診療においてタスク・シフトやタスク・シェアの推進、AIを活用したカルテ入力や文書作成といったICT・DXの導入、そして勤務体制とマネジ

メントの見直し等を内科の立場から進めており、今後もさらに推し進めていきたいと考えています。また、診療と並ぶ大きな柱である研修医教育においても、新専門医制度の下では、経験症例の確保・登録を内科全体で横断的に行う必要があります。これにつきましても、今後も全科を挙げてサポートを行っていくつもりです。

力の及ばない点多々あるとは思いますが、今後も呉医療センター・中国がんセンター及び呉医療圏の診療に貢献できるよう全力を注ぐ覚悟でありますので、皆様におかれましては、何卒ご指導ご鞭撻を賜りますよう、よろしくお願い申し上げます。



就任挨拶

看護部長 樋口 智津

この度、令和8年4月1日付で四国こどもとおとなの医療センターから異動してまいりました樋口智津と申します。どうぞよろしくお願いいたします。

出身は愛媛県です。これまで四国4県の国立病院機構病院で勤務してまいりました。呉医療センターは、看護部長として4施設目の勤務地となります。この度の異動で、初めて中国地方で勤務することとなり、呉医療センターでの勤務経験はございませんが、病院理念のもと「丁寧でやさしさが伝わる誠実な看護実践」を目指したいと思っております。

瀬戸大橋を渡り、呉市に居を移し、まずは呉医療センター周辺の環境の素晴らしさに感動いたしました。山々に囲まれ、瀬戸内海を船が行き来する光景を窓から見渡せる病院の環境は、多くの入院患者さんにとって、心が癒される良質な治療・療養の場であると感じました。また、業務の引継ぎに訪れ、道を探ねた際には地域の方々にとっても親切にいただきました。不慣れな土地で地

域の人の温かさに触れ、不安な気持ちから安心へと変化したように感じました。

呉医療センターは歴史と伝統を持つ大規模な病院です。呉二次医療圏の中核として、日常的には、がん、周産期、三次救急等の多様な診療を行いつつも、発災時には災害拠点病院という役割を担う機能を備えております。大きな役割ではありますが、地域の皆さんにお役に立て、求められる使命を果たすことができるよう微力ながら精一杯努めてまいります。また、附属呉看護学校との連携を大切にしたいと考えます。風通しの良い、学びのある職場環境を維持し、教員の皆さんとともに優秀な看護師の育成を進めてまいります。看護部全体で一人ひとりの職員が、互いに大切にされていると感じることができ、思いやりとやさしさを持ち、ともに成長する組織作りに尽力してまいりますので、ご指導、ご支援賜りますようどうぞよろしくお願いいたします。



就任挨拶

事務部長 山根 知己

この度、令和8年4月1日付にて事務部長として着任いたしました山根知己と申します。どうぞよろしくお願いいたします。

前任地は浜田医療センターで、4年間事務部長として勤務させていただきました。当院では、平成18年4月から平成20年3月までの2年間を経営企画係長として勤務させていただきました。18年ぶりの勤務となります。

平成18年当時は、当院がDPC/PDPS(診断群分類に基づく1日当たり定額報酬算定制度)による診療報酬請求を開始した時であり、DPCデータを用いて診療の質向上・経営改善に繋げていくためどのように分析・評価を行うのか、医療情報部長の指導を仰ぎながら経営分析指標を策定していきました。なお、当時は経営状況(資金繰り)が厳しかったため、DPC分析ツール導入の許可が得られず、全てEXCELを用いて分析を行うこととなり、必然的に

EXCELについても学習させていただく良い機会ともなりました。また、策定した分析手法について、日本医療マネジメント学会学術総会で発表させていただく貴重な体験もさせていただきました。当時策定したDPC経営分析指標のうちの一部について、最近になっても中国四国グループ内の病院で使用されていることを目にするのがあり、当時を非常に懐かしく感じることがあります。

近年の医療機関における経営悪化の要因は、人口動態の変化や、診療報酬の改定、労働市場の変化、物価高騰など複合的要因が挙げられ、経営課題を解決することは容易ではないと考えられます。しかしながら、呉医療センターが今後も当地域に存続し続け、地域から求められる高度医療の提供と地域医療の確保を行うことができるよう、皆様のご協力をいただきながら進めてまいりたいと考えておりますので、ご協力のほどよろしくお願いいたします。



就任挨拶

薬剤部長 榎 恒雄

令和8年4月1日広島西医療センターより異動して参りました、榎恒雄です。どうぞよろしくお願いいたします。出身は、酒都西条、広島県東広島市です。前施設では電車通勤をしていましたが、4月より毎朝1時間かけてマイカー通勤をしています。スポーツ観戦が好きでカープやサンフレッチェの試合をよく見に行きます。劣勢の中、勝利した時の感動は言葉では表せません。勝利の次の日はウキウキして仕事に向かいます。

このたびは呉医療センターで勤務する機会をいただき、大変光栄です。

薬剤師を取り巻く医療環境は年々変化しており、薬物療法の高度化、複雑化が進んでいます。安全で質の高い

薬物療法を提供することは、薬剤部に課せられた重要な使命であると考えています。患者さんにとって最善の治療が実現されるよう、医師・看護師をはじめとする多職種との連携を大切にし、薬剤師の専門性を十分に発揮できる体制を作っていきたいと思っております。

また、薬剤部職員一人ひとりがやりがいを感じ、成長できる職場環境の整備に力を注ぎ、組織として安定的かつ継続的な医療に貢献できるよう取り組んでいきます。

甚だ微力ではございますが、当院の理念実現と地域医療への貢献に少しでもお役に立てるよう誠心誠意努力してまいります。今後とも皆さまのご指導、ご支援を賜りますよう、よろしくお願いいたします。

内分泌 ・ 糖尿病内科

「明るく楽しい糖尿病治療」
を目指して。一人ひとりに
寄り添う糖尿病治療を目指す
呉医療 diabetes ブルーチーム



内分泌・糖尿病内科科長 久保田 益亘

【当科の糖尿病診療 - 医師・看護師・栄養士・薬剤師によるチーム医療】

当科では、血糖コントロールが難しい患者さんの治療を中心に、「糖尿病であっても健康な人と変わらない生活の質(QOL)と寿命を全うすること」を目標に掲げています。2018年より広島県の「糖尿病診療拠点病院」に指定されており、先進的な医療を提供できるよう日々研鑽を重ねています。糖尿病は患者さんの生活すべてを反映した病気と言われるように、病因に加え、年齢や食習慣、仕事や家庭環境、併存疾患や認知機能などにより病状が変化するため、患者さんの生活に合わせた柔軟なサポートが必要となります。そのため、初診時には、初期研修医により問診を行い、主治医と協議することにより、糖尿病と診断されたきっかけやその時期、治療における患者さんのご希望、家族構成、併存症、服用されているお薬などを診察前に把握させていただいております。さらに栄養指導において体組成計を活用することで患者さんの体脂肪率と筋肉量を経時的に評価し、治療に活用しています(図1)。

当院栄養相談室にてInBodyを測定している風景



図1: 栄養指導における体組成計の活用

【当科の特徴: チームで支える「テーラーメイド治療」】

糖尿病は、お仕事、ご家庭、食習慣など、患者

さんの「生活そのもの」を映し出す病気です。そのため、私たちは医師だけでなく、看護師、管理栄養士、薬剤師が一体となった「呉医療 diabetes ブルーチーム」として、お一人おひとりに最適な治療を検討しています(図2-3)。



図2: 呉医療 4B diabetes ブルーコアチーム



図3: 呉医療 4B diabetes ブルーチーム

- **多職種によるきめ細かなサポート:** カンファレンスを通じて、診察室ではなかなか話にくいお悩みや、生活の中の困りごとをチーム全体で共有しています。「無理なく続けられる」と患者さんからもご好評をいただいています。
- **「見える化」で納得の治療を:** 体組成計による筋肉量・体脂肪率の評価や、最新の持続血糖測定器(CGM)を導入しています。血糖値の変動が「連続した線」として見える化されることで、ご自身の生活と血糖の関係を体感しながら、前向きに治療に取り組んでいただけます。
- **高齢化社会への対応:** 一人暮らしや介護が必要な方でも安心して治療を続けられるよう、ソーシャルワーカーと連携し、退院後の訪問看護や通院方法の調整も積極的に行っています。

【進化するデバイスと1型糖尿病治療】

1型糖尿病の患者さんに向けては、血糖値に応じてインスリン注入量を自動調整する最新システムや、チューブのないパッチ式インスリンポンプ(メディセーフウィズ®)などを活用し、さらなる生活の質向上を目指しています(図4-6)。

図4: 経時的な血糖変動を複数日集積した曲線でレポート表示し患者と医療者の間で共有する(リブレView®)



図5: 持続血糖モニターの血糖値に応じてインスリンポンプの注入量の調節機能がついたミニメド™ 780Gシステム®

図6: チューブレスのパッチ式インスリンポンプメディセーフウィズ®



【最後に: ブルーに染まる呉の街とともに】

糖尿病は初期症状が乏しいため、通院が途切れがちになります。しかし、私たちは糖尿病であることを隠さずに済む社会、そして安心して通院を続けられる環境を作りたいと考えています。毎年11月14日の「世界糖尿病デー」には、広島県医師会糖尿病推進会議のもと、呉市福祉保健課や当院管理課にご協力いただき、糖尿病の啓発のため、当院正面玄関のモニュメントや、入船山記念館の旧呉海軍工廠塔時計台をシンボルカラーのブルーにライトアップしています(詳細は世界糖尿病デー HP(日本語版) <https://www.wddj.jp/event/>) (図7)。これからも「呉医療 diabetes ブルーチーム」は、地域の皆さまが合併症のない健やかな毎日を送れるよう、全力でサポートしてまいります。

図7: 世界糖尿病デー(11月14日)の当院モニュメントと旧呉海軍工廠塔時計台(呉市入船山記念館)のブルーライトアップ



呉の夕暮れに映えるブルーライト



4B病棟紹介

病棟師長 森 智美



4B病棟は、小児科(21床：新生児、小児外科含む)、内分泌・糖尿病内科(7床)、リウマチ・膠原病科(7床)、眼科(4床)を主科とし、他科でも耳鼻科・整形外科・形成外科などの手術目的の患者さんの入院受け入れ、52床を有する混合病棟です。新生児から成人まで幅広い年齢層の患者さんの看護に携わることができる病棟です。

小児科では、感染症や手術目的など様々な疾患の患児が入院しています。病棟には保育士が1名常勤しており、手術前のプレパレーション(手術をうける患児に紙芝居や人形を用いて、手術の流れを説明すること)を実施、病室から出ることができない患児に本の読み聞かせなどを行い、発達に応じた遊び・保育を提供しています。そして、患児やご家族に少しでも季節を感じてもらおうと、医師・看護師・保育士が協力して、プレイルームや廊下に飾りつけを行い、スタッフ全員で趣向を凝らして夏祭り・ハロウィン・クリスマスなどの行事を開催しています。

また、当院は呉市唯一の母子医療センターであり「未熟児新生児治療室」が設置されています。当院産科病棟だけでなく地域のクリニックや病院から、早産児や低出生体重児、疾患を抱える新生児の入院を受け入れています。ご家族と離れた入院生活となるため、面会時間を通しての育児指導を行う中での愛着形成に努め、赤ちゃん・お母さんをはじめとしたご家族に寄り添うケアを行っています。



未熟児新生児治療室

内分泌・糖尿病内科では、呉医療圏における糖尿病医療の基幹施設として、他施設の糖尿病専門医や

当地域のクリニックと連携して治療を行っています。近年の糖尿病治療は、多種類の新規治療薬によって複雑化しています。個々の治療方針を決定し、入院中に患者さん本人だけでなく、家族へも血糖測定、インスリン自己注射の指導や、栄養士と連携し栄養指導を個別指導や集団指導を行い、入院中だけでなく、退院した後も、患者さんやご家族が安心して、生活しながら自己管理していけるよう支援しています。



糖尿病教室での指導

リウマチ・膠原病科は、呉医療圏唯一の専門医療機関として、関節リウマチ、膠原病疾患などの自己免疫疾患の難治性治療を行っています。入院が長期化することもあり、入院時から退院後の生活を見据えて関わらせて頂いています。

こどもからおとなまで様々な患者さんやご家族の気持ちに寄り添い、安心して入院生活が送れるよう環境づくりに努め、スタッフ一同が専門的な知識の向上に努め、チーム医療の向上をはかっていきたいと思っております。



病棟スタッフ

令和8年度 辞令交付式について

給与係長 阿武 禎人



4月1日(水)に採用、転入、昇任された職員に対して「令和8年度辞令交付式」が執り行われました。総勢170名と多くの参加者がいたため、昇任・転入・採用の職員で時間と場所を分けて開催しましたが、事前に管理課内で役割を決めてシミュレーションを行うことで当日はスケジュール通りに進行できました。

また、看護部と協力することで受付およびオリエンテーション会場設営についてもスムーズに行うことができました。各会場ではじめに繁田院長より一人ひとりに辞令が手渡され、その後にそれぞれの職場での活躍へ向けて激励の言葉が贈られました。

新たに加わった職員とともに一致団結して、呉医療センターは今年度も「思いやりのある、やさしい誠実な医療」を病院理念として患者さんへ高度な医療を提供してまいります。



令和7年度 第44回院内研究発表会

臨床研究部長 山崎 琢磨



本年度の院内研究発表会は、令和8年1月31日(土)に開催されました。繁田院長による開会挨拶に続き、午前9時より発表が始まりました。

今回の発表演題は合計14題でした。(図1)特別講演では、呼吸器外科科長/腫瘍統計・疫学室長の三村剛史先生に「臨床研究のすすめ 一日常診療の中に転がるクリニカルクエスト」为题してご発表いただきました。

参加者は86名と前年度から28名増えました。今年度から4月の管理診療会議にて各科への演題依頼を行ったこともあり、各科から発表を行うことで職種を超えた活発な討論が行われました。普段は交流の少ない職種間での意見交換がなされ、当センターの臨床研究の質向上に繋がることが期待されます。(図2、図3)

後日の幹部会議で優秀発表演題3題を選定し、管理診療会議において表彰式を行いました。(図4)。

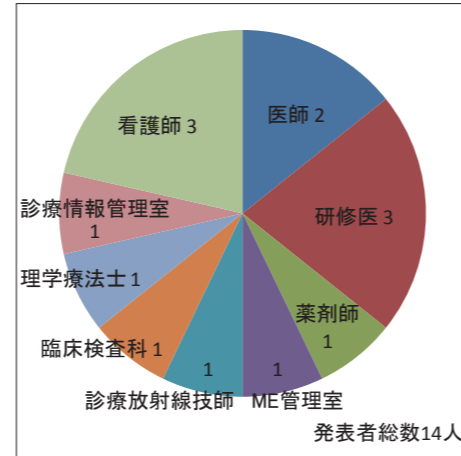


図1 発表者職種別人数

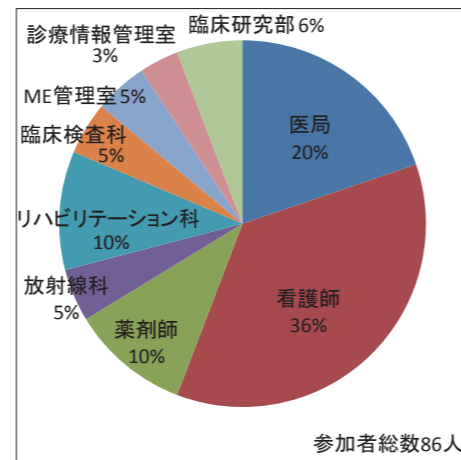


図2 参加者比率

【優秀発表演題】

- CPAP業務における臨床工学技士介入が及ぼす効果について
○ 入船 竜史、多賀谷 正志
ME管理室
- 遷延する頭痛を主訴に救急搬送された後、急速な意識障害の進行をきたした1例
○ 茂久田 洪、小松由樹子、村尾智美、金谷雄平、同道頼子、倉重毅志、大下智彦
脳神経内科
- ペースメーカーにより生じる金属アーチファクトの低減に向けた最適CT撮影条件の検討
○ 森川 祐介
放射線科



図3 会場光景

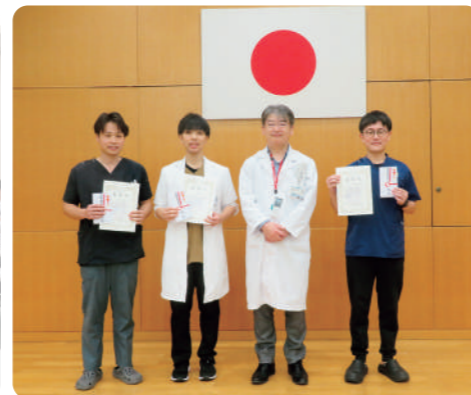


図4 表彰光景

第16回 治験責任医師表彰

治験主任 矢野 圭悟



2026年3月の管理診療会議において、2025年度治験責任医師表彰が執り行われました。本表彰は2010年度より開始され、1年間で最も治験に貢献された医師を表彰するものです。2025年度は、症例登録数および請求金額で第1位となった循環器内科の杉野浩医師、ならびに同意取得数で第1位・症例登録数で第2位となった整形外科の山崎琢磨医師が受賞されました。

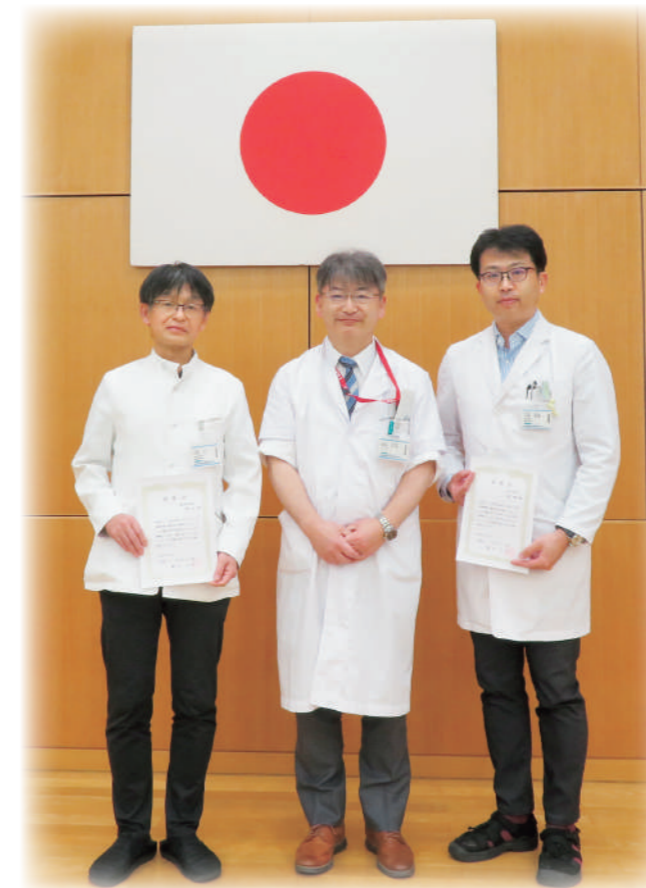
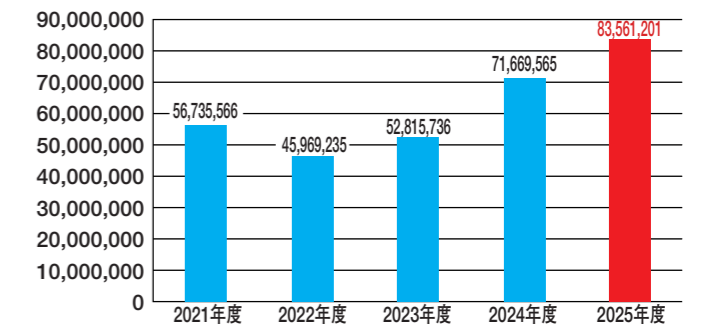
当院では昨年度、13診療科において42試験を実施し、多くの患者さんにご協力いただきながら治験を推進してまいりました。その結果、直近5年間で最高の請求金額を記録しました。これは、各診療科の医師をはじめ、看護師、薬剤師などのしたコメディカル、事務職員を含む多職種の連携による成果でもあります。

近年、海外で有効性が確認されている医薬品であっても、日本では開発や承認申請自体が行われず、将来的にも使用できない「ドラッグ・ロス」が課題となっています。こうした状況の中で、治験は新しい医薬品を国内で患者

さんに届けるための重要な役割を担っています。また、治験への参加は、既存の治療では効果が得られにくい患者さんにとって、新たな治療の機会となる可能性もあります。

当院では今後も、医師・スタッフが一丸となって治験に取り組み、医療の発展に貢献するとともに、患者さんにより多くの治療の選択肢を提供できるよう努めてまいります。

受託研究収入金額(合計)



患者の垂直避難を行った院内災害訓練

呉医療センター DMAT 救命救急センター部長 岩崎 泰昌



災害拠点病院の要件と1つとし、災害訓練の実施があります。

当院でも毎年災害訓練を実施していますが、診療エリアを設置し傷病者の受け入れ訓練を行うことが多いです。今年度の訓練では巨大地震などにより建物や設備の損壊が生じ、一部の病棟が使用できなくなった場合を想定し、患者を安全な病棟へ避難させる訓練を行いました。

建物損壊によりエレベーターなどが使用できない場合には歩行不能な患者を、階段を使用し安全に垂直移動させることが求められます。その場合は具体的な避難計画が必要であり、訓練では暫定対策本部を設置し被災情報を集約し、損壊した病棟の把握から入院患者の避難先の

病棟を本部で決定しました。(写真1・2・3)

模擬患者の移動には、当院に実際に整備しているエアーストレチャー、イーバックチェアを用いて階段を下りる訓練を行いました。本訓練を行うことで、災害時に病棟避難の必要が生じた場合に、入院患者を安全にかつ迅速に避難させることができるか、また用いる機材での課題は何かを確認することに繋がりました。入院患者の避難訓練は、初めての試みであり院内に整備されている搬送用器材の使用は訓練などをくり返す中で安全性や課題に対する対策を講じ、実災害時に迅速に使用できるまでに繋げることが今後の課題であると感じました。



(写真1・2 暫定対策本部の様子)

グループ	症例番号	模擬患者氏名	担送	年齢	性別	病名	点滴	酸素	シリンジポンプ	その他	診療科	主治医
I 861号室	1①	梶江 麻衣	担送	78	女	尿路感染症 敗血症	○	×	無		産婦人科	佐川麻衣子 8A (477)
	2②	茂久田 洪	担送	55	男	骨盤骨折、右大腿骨骨折	○	×	無	右大腿骨直達牽引中	救急科	谷 千尋 5A (577)
	3③	二宮 健太郎	担送	90	男	誤嚥性肺炎、急性呼吸不全	○	マスク8L	有 イン/パ 3ml/時		呼吸器内科	長岡 真実 7B (774)
	4④	久保 美血	搬送	88	女	肝臓がん化学療法中	○	×	×	黄疸あり	消化器内科	岡本慶太郎 6A (601)
II 862号室	5①	寺川 陽	担送	73	女	多発性骨髄腫、肺炎	○	マスク8L	無		血液内科	小松由樹子 4B (452)
	6②	山口 貴弘	担送	68	男	急性心不全	○	マスク8L	有 ドブポン 3ml/時		循環器内科	下木貴司 5B (573)
	7③	廣兼 百合	搬送	70	女	右脛骨腓骨骨折	×	×	無	右下腿シーネ固定	整形外科	岡田芳樹 8A (475)
III 863号室	8④	坂本 裕紀	担送	88	男	肺癌術後	○	×	無		呼吸器外科	谷峰直樹 4B (428)
	9①	本田 恭司	担送	40	男	交通外傷、腰椎骨折、聴覚障害、両下肢麻痺	○	×	無		救急科	松井将太 3A (306)
	10②	高橋 大樹	担送	82	男	COPD急性増悪	×	マスク8L	無		呼吸器内科	長岡真実 7B (774)
	11③	馬場 亮輔	搬送	72	男	脳梗塞、右片麻痺	○	×	無		脳神経内科	小松由樹子 5B (573)
	12④	宮崎 亘	担送	88	男	肺炎球菌肺炎、敗血症性ショック	○	マスク10L	有 メルアド 3ml/時		救急科	谷 千尋 3A (303)

①②③④はベッド位置番号
担送はエアーストレチャーにて搬送、搬送はイーバックチェアを使用

(写真3 入院患者のリストと避難先の病棟)

【エアーストレチャーを用いた搬送】



ベッドの上でエアーストレチャーへ移動

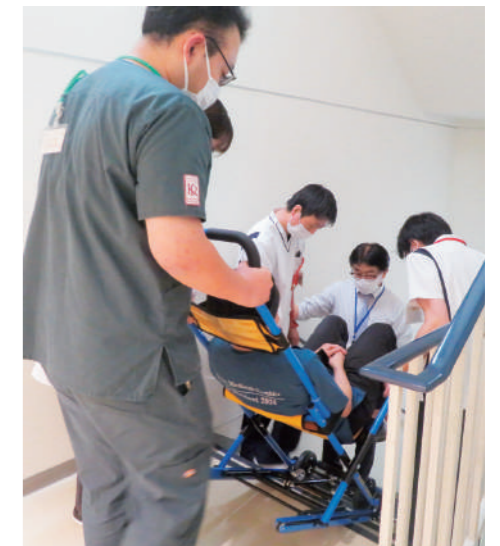
【イーバックチェアを用いた搬送】



イーバックチェア移動後の廊下移動



搬送前に固定具で安全確保



階段の最初はみんなで安全確認



酸素ポンプなど患者に必要な資材と一緒に搬送



狭い階段移動は細心の注意が必要

第61回 卒業式を終えて

前呉医療センター附属呉看護学校 教員 小山 仁一



令和8年3月3日(火)呉医療センター附属呉看護学校では第61回の卒業式が挙行されました。毎年この時期になると、学生が卒業を迎えることができたことに喜びを感じる反面、別れの機会にもなることに寂しさを感じています。学校長先生の式辞でも述べられていましたが、今回の卒業生は呉看護学校入学後に新型コロナウイルス感染症が5類に移行され、徐々に感染症流行以前の状態に復旧していく中で学校生活を過ごしました。スポーツ交流大会や学校祭などの行事では制限が緩和され、他校や地域住民の方々と交えての実施となりました。そのような時代の変化への対応が求められ、実施計画を調整していくことは、学生にとって大変だったと思います。そのため、最後の節目となる卒業式が卒業生にとってかけがえのない思い出になるように、呼名の時には「卒業おめでとう!」「お疲れ様!今後も応援しているよ!」という気持ちを精一杯込めて一人一人の名前を読み上げました。卒業生が卒業証書を受け取る姿、校歌を歌っている様子、そして退場していく姿を、卒業式が終わった今でも鮮明に覚えています。

ここまで卒業生が成長できたのは、ひとえに学習の機会をいただいた患者様、ご家族、地域住民の皆様、そして指導いただいた指導者や関係者の方々、そして共に学んだ仲間がいたからこそだと考えています。

今後、卒業生はそれぞれの道を歩むこととなりますが、その先で新たに会える患者様や職場の先輩方など、多くの人々に支えられ、更に大きく成長すると思います。

卒業生の看護教育にご尽力を賜りました皆様、誠にありがとうございました。これからも呉医療センター附属呉看護学校に変わらぬご高配を賜りますよう、よろしくお願いいたします。



64回生 入学式を迎えて

呉医療センター附属呉看護学校 教員 三宅 優子



令和8年4月9日、風に舞う桜が目深に焼き付くこの日、呉医療センター附属呉看護学校では、入学式がとり行われ、43名の新入生を迎えました。桜は満開の時期から葉が芽吹く頃となり、看護学生としての新しい一歩を踏み出す、新入生たちの姿に重なるようでした。

緊張した面持ちで真新しいスーツに身を包む新入生の姿には、まだごちなさもありません。しかし、これから始まる看護学生としての新たな学びや、新たな学校生活、新たな仲間との出会いに、期待と不安の両方を抱いている様子でした。また、一人ずつ呼名をする私も、身が引き締まる思いで式に臨みました。学校長の前で一人ひとり名前を呼ばれた際に、「はい」と返事をする声は、とても元気がよく、看護の道を志す希望の声に聞こえました。学校長をはじめ、来賓の方々、在校生からの祝辞や歓迎の言葉を、新入生は真剣なまなざしで聴いており、看護学生としてこれから歩み始めることを実感したように思いました。そして新入生は、本校の学生としての自覚をもって責任ある行動をとること、講義・実習・学校行事に主体的に取り組み、患者に求められる実践力のある看護師をめざして努力することを誓いました。

これから、彼らは、専門知識を学び、看護技術を習得し、3年間かけて看護師として必要な知識・技術・態度を身につけていくこととなります。私も、教員として将来を担う看護師を育てていくのだという決意と責任の重さを、あらためて認識しました。これから彼らの成長を楽しみに見守っていきたいと思います。

国立行政法人 呉医療センター附属
呉看護学校 入学式



学校長式辞
在校生が
ウェルカムボードを
作成してくれました

64回生のみなさん
ご入学
おめでとう
ございます!

祝電
入学にあたり
多くの祝電を
賜りましたことに
感謝申し上げます

「令和7年度呉医療センター特定行為研修」修了式の開催について

前管理課庶務係 新谷 眞央

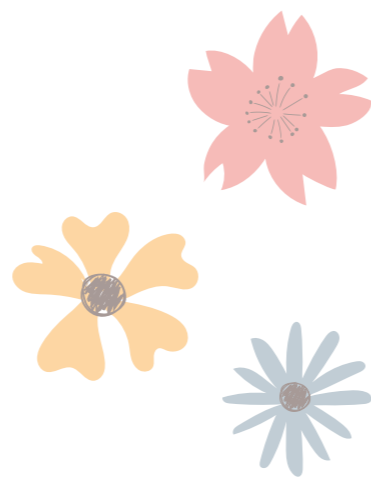


令和8年3月23日(月)に「令和7年度呉医療センター特定行為研修」修了式を行いました。院長や副院長、特定行為研修の責任者である救命救急センター部長をはじめとした7名の関係者及び受講生4名で執り行われました。

当院では令和3年度より「救急領域パッケージ」の研修を開講し、令和5年度からは「末梢留置型中心静脈注射用カテーテル管理」通称PICCを開講しております。令和7年度特定行為研修では「救急領域パッケージ」に2名、「PICC」に2名、計4名の看護師が当院で研修を受講されました。令和7年6月より研修は開始され、今年の3月までの約10カ月間、研修生の頑張りの結果、無事4名とも研修を修了することができました。

特定行為研修は近隣の他医療機関でも開講されておりますが、当院の症例数は非常に豊富で他施設での研修と比較して多くの症例数を学べると自負しております。今年度も特定行為研修の開講を予定しており、2名の看護師が入構予定となっております。

この度研修を修了した4名の看護師には所属病院に戻って現場で活躍いただくとともに、特定行為を行える看護師のモデルケースとして、特定行為研修を各方面に広めていただければと思います。今後も臨床現場で活躍できる特定行為研修の修了者を増やしていきます。



連携医療機関 紹介

くぼファミリークリニック

院長 久保 景勝



呉医療センターの皆様、いつもお世話になりありがとうございます。くぼファミリークリニックの久保景勝と申します。当クリニックは呉市海岸にあり、国道31号線沿いで東に直進するとゆめタウン、貴院方向、左折(31号線)で呉駅前方向への分岐直前にありますが場所が分かりにくいとよく言われます。以前、久保外科医院として父 久保雄治が診療し(父親は高齢ですので現在診療していません)私は近畿圏内で異動し一般外科医

として勤務していましたが、自分の地域医療に対する知識の狭さを実感したため勤務していた病院で外科、総合診療科、内科を標榜してプライマリケアを実践し、継承の運びとなりました。外科医院が減少していくなか外科、整形外科疾患を含めた総合診療かかりつけとしての医療を継続させることによる橋渡し、そして当地域の先代が行ってきた2世代、3世代にわたる医療をさらに下の世代への橋渡しを、と考える久保外科医院からくぼファミリークリニックと医院名称変更をしました。ファミリークリニックという名称のため小児科も診療してもらえるのか、と問い合わせが時々ありますが誠に申し訳ありません、診療していません。小さなお子さんに関しては外傷のみ対応しておりますのでよろしくお願いいたします。地域のプライマリケア医、かかりつけ医として慢性期疾患、頻度の高い疾患を中心とする内科疾患を中心とした診療をしており、先代が整形外科標榜して継承するため整形外科的治療を継続していますが理学療法士などはおらずリハビリは行っていませんのでご了承ください。その他、外傷、皮膚疾患の外科的処置、手術を行います。プライバシーを考慮して肛門外科は標榜せず、痔核に対する処置、日帰り手術を行っていますので来院される際は一度ご連絡ください。

内科、外科、整形外科にたいして対応しており、またプライマリケアを中心とした診療のため幅広い科へご紹介させていただいておりますが、無理なお願いやごにかかわらず迅速に対応していただき、またどの先生方も非常に詳細な診療情報提供書を早急に作成していただきいつもそのご尽力に感謝しております。当院をはじめ呉の地域医療は貴院スタッフ皆様の支えがatterるものですので大変かと存じますが今後ともよろしくお願いいたします。



クリニック外観



くぼファミリークリニック

〒737-0823 広島県呉市海岸1丁目3-4

院長 久保 景勝

我が家のスターたち



矢野 翔大くん

保護者コメント

入園当初は不安そうな顔で登園していましたが、先生方の温かい関わりやお友だちとの触れ合いの中で、すぐ園生活にも慣れ、今では毎日楽しく通っています。特に、保育園でのお散歩が大好きで、帰宅後には「公園にねこちゃんがおった」「船を見に行ったよ」と嬉しそうにその日の出来事を教えてくれます。

園での経験が子どもにとって楽しい思い出となり、安心して過ごせていることを感じています。



担任保育士のコメント

ダダダダが大好きで、笑顔がかわいいうたくん♡

なんでもひとりでできるようになったね。くつ下とくつが履けたら「できたよー」と教えてくれたり、お別れ会では大きな声で「やのしょうた3才です。ひまわり幼稚園に行きます」と言えてかっこよかったよ。お散歩も色んな公園や広場にたくさん行って楽しかったね。

これからも元気で、ニコニコ笑顔のしょうたくんできてね。

山方 智尋くん

保護者コメント

1歳3ヶ月で入園し、あっという間に6月で3歳になります。

入園当初はまだ言葉も話せず、少ししか歩けなかったですが、今では遠くの公園までお散歩に行けるようになったり、話せる言葉が増え上手にお話したり、歌を歌ったりできるようになり、とても成長を感じています。

今は車が大好きで、気付いたらいろんな車の名前を覚えていて、記憶力に驚いています。

小柄な智尋ですが、智尋のペースで、これからも元気にすくすく成長してほしいです。



担任保育士のコメント

元気いっぱいお話上手な ちひろくん。お当番さんが大好きで、毎朝他のお友達の名前が呼ばれると、「ちーくんのお当番！」と涙が出ることも・・・。

車が大好きで、お迎えの時には「今日これ持ってきた！」と鞆からトミカを出して、楽しそうに走らせているね。

新入園児さんが泣いている時には、「赤ちゃん泣いとるね」と頭をなでてくれる優しいお兄ちゃん！

これからも、お友達や先生と楽しくすごそうね！

呉医療センターへご寄付をいただきました。

令和8年1～3月に、ご寄付をいただきました。

- ◆ご寄付 呉医療センター附属看護学校 38 回卒業生一同 様
(呉医療センター及び附属看護学校へ有意義に活用していただきたい為)
梶梅千恵子 様 (患者様の心のいやしになります様に)
医療法人社団森本医院 様 (臨床研究の発展と地域医療の連携)

みなさまからの気持ちのこもったご支援をありがとうございました。

編集後記

病院敷地内にある桜の木が満開になっているのを眺めながら1年が経過したことを実感しております。今年もフレッシュな新人がたくさん入職しました。また、昨年1年目だった職員も2年目となり、周りの方からの見方も変わると思います。私も2年目となりますので応えられるよう、これまで以上に業務に努めていく所存です。本年度もどうぞよろしくお願いいたします。
(広報委員会)